

稲葉 一男 筑波大学下田臨海実験センター教授



山梨県南部町出身

1985 年 静岡大学理学部生物学科卒業

1990 年 東京大学大学院理学系研究科相関理化学専攻修了(理学博士)

1990 年 東京大学理学部附属臨海実験所助手(神奈川県三浦市三崎町)

1996 年 文部省在外研究員(アメリカマサチューセッツ州、ウースター実験生物医学財団)

1998 年 東北大学理学部附属臨海実験所助教授(青森県青森市浅虫)

2004 年 筑波大学下田臨海実験センター教授

著書(論文)

「精子運動の活性化と走化性」動植物の受精学—共通機構と多様性(澤田均編)化学同人(2014)

「カルシウムシグナルによる哺乳類精子超活性化の制御」細胞工学 Vol. 33(4), 366-371. 秀潤社(2014)「精子が卵を目指すしくみ——運動の方向転換を司るタンパク質「カラクシン」」

遺伝 Vol. 67(5), 610-617. NTS (2013)「鞭毛・繊毛の構造と運動メカニズム」細胞工学、秀潤社 (2009)「動物の動きの秘密にせまる」日本比較生理生化学会編、共立出版(2009)

「精子鞭毛運動とプロテアソーム」新編精子学 東京大学出版会 (2006)

「ゲノム情報と精子学」新編精子学 東京大学出版会 (2006)

「臨海実験施設の将来像」比較生理生化学 2006, 23, 193 (2006)

「カタユウレイボヤのバイオリソース化に向けて」、細胞工学 125, 1460-1461 (2006)

月刊海洋(号外 41 号)(2005)境界動物の生物学—脊椎動物への進化の研究最前線—、ホヤ精巣における遺伝子発現とそれらの機能解析、89-97 タンパク質リン酸化による鞭毛・繊毛運動の制御, 比較生理生化学(1999)16, 4-14.

精子鞭毛運動の分子機構に関する研究、生物科学ニュース (1998) 322, 16-20

「生殖と受精」、朝倉図解生物科学講座「図説発生生物学」(浅島誠編)(1996) 朝倉書店

プロテアソームによる精子鞭毛運動の制御、生物物理 (1996) 203, 49-50

精子鞭毛運動におけるプロテアーゼの役割、比較生理生化学 (1995), 12, 251-259

精子のプロテアソーム、Cell Science 、医学出版センター (1992) Vol. 8, 750-758

鞭毛纖毛運動の分子機構。蛋白質・核酸・酵素 臨時増刊号「細胞骨格の機能」(酒井彦一編)共立出版 (1989) Vol. 34, 1505-1512